

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年1月7日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101920
法人名	医療法人 聖心会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 まごころ照国
所在地	鹿児島県鹿児島市照国町7番17号 (電話) 099-813-7260
自己評価作成日	平成30年12月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年12月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の状態であっても、家庭的な雰囲気の中で共同生活を通して個々の意思・ライフスタイルを尊重しながら自立支援に向けた介護を心掛けております。場所は照国神社境内の近くにあり、周囲は城山を背景に小鳥のさえずりが聞こえる緑豊かな山々に囲まれ、天気の良い日には屋上から桜島を眺望できる、地域に根差した明るく開放的な施設です。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・看護小規模多機能型居宅介護を有する複合型介護施設内に開設している。運営母体の協力医療機関との医療連携及び施設内の看護職員の協力があり、利用者・家族及び職員の医療面における安心に繋がっている。施設全体が一体的に運営され、各事業所及び職員間の協力体制が整っている。
- ・地域行事への参加や運営推進会議に町内会の協力を得ている。地域交流センターを地域へ開放したり、保育園児との交流予定等、地域との交流を積極的に進めている。
- ・ケアに専念する為の厨房からの配食や個々の身体状況に応じて利用できるトイレ付き居室等に配慮し、管理者を中心に職員が利用者中心のケアに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに実践している。今年度はより具体的に大事にしたい事を話し合い、ご利用者と共有する理念を構築した。毎朝確認し実践につなげている。	複合型介護施設の理念を事務室に掲示している。毎朝、唱和して理念を確認すると共に、パソコンを利用したミニカンファレンス等で職員間の意見交換とケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のお店、商店街など日常的に出かける機会がある。	地域の餅つき会への参加や地域交流センターの住民利用・演芸ボランティア受け入れ等、地域との交流に取り組む予定である。保育園児との相互訪問等の交流も計画している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域行事や施設行事の中で地域とのかかわりを持ち、認知症の理解や接し方を知っていただき、地域の方が相談できるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回の運営推進会議を開催している。利用状況や現状を報告し、そこで出たご意見を反映している。	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、事業所のヒヤリハット等を含めた報告と意見交換を実施している。災害時の避難所確保の助言を受けて安全確保の為の対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	年に6回の運営推進会議には地域包括の職員も参加されるなど協力をいただいている。入退居者等を報告して指示等いただいている。	市の担当者とは、必要に応じて窓口に出向いて相談し、連携・協力関係を築いている。市の研修会に参加しており、情報交換や情報収集に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人では身体拘束を行わない取り組みを行い研修会等で全職員が理解している。玄関の施錠はせず、言葉の掛け方にも日々気を付けている。	指針があり、身体拘束廃止委員会を開催している。職員は、研修等で法人の身体拘束をしないケアの方針について理解しており、言葉使いにも気をつけている。玄関の施錠はせず、外に出て行く利用者には声かけや付き添って散歩する等、行動を制限せず自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしない為の研修時に虐待防止法についても一緒に研修をしている。また、職員のストレスをため込まないように適時コミュニケーションをとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については学ぶ機会を持てなかった。成年後見制度を利用されている利用者様がいるので、学ぶ機会としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始前にご自宅へ訪問し、利用契約書や重要事項説明書の十分な説明を行っている。利用開始にあたり不安・疑問等お聞きしご理解をいただいている。ご本人にも利用前に来て頂き、説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご面会や施設行事に参加して頂いた際に、ご意見を伺うこともある。また意見箱を設置し外部の方からの意見を頂きやすい環境を整備している。	利用者には、ゆっくり向き合う時間を設けて要望を聞いている。家族には、運営推進会議で意見を聞いたり、面会時には写真で利用者の日常の様子を理解してもらおう等、気軽に要望等を出してもらええる雰囲気づくりに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	いつでも意見を言える雰囲気や関係に努め、提案等については実現できるよう一緒に考えるようにしている。毎月のカンファレンスでは職員からの意見を聞く良い機会となっている。	毎月のカンファレンスでは、職員から掃除の時間設定等の業務改善やケア方法についての意見を活発に出している。施設長による年2回の個人面談も実施している。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の上層部と話し合い、労働環境の改善に法人をあげ取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新規採用時にはオリエンテーションを実施し力量の把握に努め、外部研修にも積極的に参加して頂いている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在は行えていないが近隣のグループホーム管理者と交流を行い、今後相互訪問や職員交流を行っていく企画を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い本人にあった入居の方法を考えている。家族とも連携を取り安心して過ごして頂けるよう信頼関係の構築に努めている。また本人の要望を必ずお聞きしプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者が入居前に訪問し、家族としての困りごとをお聞きしている。また入居する事で家族との交流が無くなってしまわないように注意して支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握し事前に来て頂くなどの、必要な支援をしている。他のサービス事業所とも連携を図り入居が決まった時など行き来をして、情報をもろうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活させて頂くという姿勢を大切にし、時には職員が利用者に頼ったり甘えたり、何かする時は相談するなどしている。喜怒哀楽を出せるようお互いが家族のような関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡を取り家族とのコミュニケーションが多くなるよう働きかけている。近況や良いエピソードなど伝え、今後のケアの方向性を相談したりと生活を共に考えるパートナーと考えて関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の公共施設（イベント情報）での催しに参加している。商店街、地域のスーパーへ出かけることで馴染みの方が出来て気軽に声を掛けてくださる。	職員と一緒に天文館や美術館等の施設に出かけたり、家族と墓参りや美容室・自宅訪問・外食等で外出している。年賀状や電話取り次ぎを行う等、これまでの馴染みの関係を継続できるように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人などが隣になるような席を配慮している。困っている人がいると職員を呼んでくださる人や話したい人がいると移動していたりと利用者同士の関わりが多くある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在契約が終了した利用者はいないがサービスが終了しないように今後考えられる病気や介護に関するリスクや予防策を本人・家族と話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で本人の思いや意向を確認し、モニタリングの際には本人や家族からも希望を聞きプランに反映している。本人の言葉で確認が困難な場合は家族と話し合い、本人にとって必要な支援を検討している。	日々のケアの中で、家族の情報を参考にしながらゆっくり本人と向き合って、意向等の把握に努めている。得られた情報等は、連絡帳で職員の共有化を図っている。困難な利用者には、アセスメントシートや家族の意見を参考に本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人、家族から生活歴を確認しアセスメントシートに記載している。これまでの暮らしの情報は生活する上でヒントがあると考えるので、把握に努めている。また新しく得た情報は随時追加し、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時にはケース記録を確認し申し送りノートを活用し、情報共有をしている。毎日のバイタル測定で体調の把握にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを行い本人・家族の意向をお聞きしている。その他にも課題や検討が必要な時にはカンファレンスを行い現状に即した支援が出来るようにしている。	家族の面会時に担当者会議を実施し、家族等の希望を基にミニカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを行い、現状に即した介護計画に見直している。状況変化時等にも計画の見直しをしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実施記録と共に日々の様子や変化など必ずケース記録に記入し、申し送りノートなどで共有している。本人の言葉や思いを記載しその後のプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お盆のお墓参りや仏壇参り、お葬式、冠婚葬祭等の希望に即した外出支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事に参加する事でホームでは見られない姿を見ることができている。ホームの行事の案内をし地域の方にも参加を促している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医を継続している。受診時は情報提供表を記載し、職員も同席し医師に状況を説明し、適切な医療を受けるようにしている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医の受診を、家族の協力も得ながら支援している。月2回の訪問診療と必要時の往診を受けており、協力医療機関との医療連携体制で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	併設事業所に看護小規模多機能型居宅介護があり利用者様の健康相談や体調不良時において看護師に相談が出来る。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は情報提供を行い本人・家族が安心して治療できるように主治医や担当ナースとも話し合いを行っている。出来るだけ早期に退院出来るよう努め、家族と一緒に対応や注意事項など聞き関係作りを行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	現段階では未だ体制が整っていない。今後はホームでの看取りを希望された時は本人・家族・主治医・看護と連携を図り納得のいく終末期を過ごせるような体制を作っていく。	契約時に重度化等の場合の対応について説明し、同意を得ている。今後、検討中の職員の研修及び看護職員配置等の体制を整備した上で、家族の意向に沿った支援に取り組むことにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人やホーム内で急変時や事故発生時の対応の訓練・研修を行っている。事前学習としては行っているも実践経験がない為に不安に思っている職員もいる。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回災害訓練をおこなっている。年に1回は運営推進会議で地域との協力体制も確認していきたい。夜間の火災・地震等の想定の実施していきたい。</p>	<p>年2回避難訓練を昼夜想定で実施している。1回は運営推進会議を兼ねて実施しており、近隣住民への協力依頼も予定している。備蓄は水・米・乾パン等を系列施設で保管している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として一人一人を尊重した言葉使いや接し方をしている。プライバシーに配慮した対応に心がけており、特にトイレ利用時はそっと声を掛けるようにしている。	研修を実施し、入浴介助時の同性介助や排泄介助時のさり気ない声かけ等、羞恥心に配慮し誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事でも選択肢を設けることで、目で見えて選び自己決定できるように、また、希望がかなえられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じた支援をしている。テレビや新聞の広告を見て外出の予定を一緒に立てるなど、利用者との時の流れを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日に着たい服を選んでいただいたり、鏡の前で身だしなみを整えていただいている。特別な外出やお祭りなどでは化粧や口紅をひくなどオシャレを楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞の広告を見て食べたい物を伺ったり、今美味しい物やどのようにして食べたら良いかなど利用者と一緒に楽しみながら食事作りや片付けを行っている。季節を感じられる食事を心がけている。	食事は系列会社に委託し、併設の厨房から配食し、準備や片付けを利用者も一緒にしている。旬の無農薬野菜等を使用し、個々に応じた食事形態で提供し、行事食や誕生日のケーキ・おやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し普段と食事量や水分量が明らかに少ない時は把握しやすいように記録に残し、食事形態についても、その人が食べやすいよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は出来る限り口腔ケアを行っているが、その人の習慣により毎食でない方もいる。朝と夕は必ず行い、夕食後は義歯を洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し、その方に合ったパットを使用し、トイレへの声掛けをしている。出来るだけトイレで排泄し気持ちよく過ごして頂けるように支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。トイレ付き居室もある。夜間は睡眠を優先し、オムツやパット利用の利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師等と相談し状態の改善に努めている。時には腹部のマッサージを行っている。排泄チェック表を用い看護職員と相談しながら個々に応じた支援を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	午前・午後の予約を取ったり、本人に良いタイミングで入浴して頂いている。個々の入浴時の確認事項を整理し、入浴時のこだわりなどを把握し、手順を同じにして気持ち良い入浴を支援している。	一人ひとりの希望する時間帯で入浴しており、入浴後は保湿の為のローションを塗布している。保清目的のシャワー浴や同性介助も対応しており、入浴を嫌がる場合はタイミングを見て声かけし支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に違うので、習慣に合わせて休んで頂いている。ゆっくりテレビを見て過ごされる方もおり、気持ちよく休まれるよう寝具や気温に気を付けている。日中もお部屋や食堂のソファで自由に横になっている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に内服を管理し効能や副作用・用法等分かりやすく表示して理解に努めている。服薬時も本人の飲み込みまで確認し飲み忘れの無いようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々の会話などからアセスメントし、プランに添いながら得意な事をなるべくして頂けるよう支援している。ドライブ・歌や踊りなど楽しみにしていることを把握し出かける機会を大事にしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>催し物など情報を提供し、希望に添って施設外の行事に出かけている。お盆などには仏壇参りやお墓参りなど家族とも連絡を取り、行きたい所へ行けるよう支援している。</p>	<p>散歩は、車椅子利用と歩行の2グループで毎日実施している。行事で季節の花見や遠足・ドライブに出かけたり、利用者の希望でドライブ等の個別対応も行っている。家族と墓参りや外食・買い物等で外出する利用者もあり、できるだけ出かけられるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>当事業所では「預り金」はしておらず、必要時に家族に説明して頂いている。必要時に職員と一緒に出し買い物される方がおられる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個人の携帯電話なども持ち込まれていて、いつでも自由に使用できる。自分でかけることができない方には職員が代行してかけお話しして頂いている。家族や知人からの電話の取次ぎも自由にできる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって花や風鈴を用意して季節感を味わえるように工夫している。浴室やトイレには分かりやすい表示をしており、窓から洗濯物が見えるなど生活感があり居心地の良い空間作りに努めている。	玄関には生花が飾られ、事業所内は快適な環境に調節されている。陽当たりの良いリビングから、テラスや洗濯物のある中庭に出て開放感や生活感を味わったり、リビングのソファ等の、事務コーナーの職員からも目が届く好みの場所でくつろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日にはバルコニーなどにイスを置き、一人になられたり、気の合う方とおしゃべりを楽しんで頂いている。仲の良い関係を職員は把握しており話しやすい席などの配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には自宅で使用していた家具等を持って来られたり、生活に合わせてテレビや冷蔵庫を置いたり、写真や思い出の品を自由に飾るなど、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	状況に応じてトイレ付き居室もあり、本人の使い慣れたソファやテレビ・机・椅子等の家具及び仏壇・神棚・ぬいぐるみ等を身近に置き、本人が安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう家具の配置や個人の押し車の置き場所にも配慮している。歯磨きセットや洗剤などの置き場も随時検討し、安全な環境作りに心がけている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない